

名前 _____ 月 _____ 日 _____ 点 _____

一問一答（24問）

1	青森県にある、日本最大級の縄文時代（じょうもんじだい）の遺跡は？	三内丸山遺跡
2	弥生時代（やよいじだい）に大陸から伝わり、人々の生活を大きく変えた農業は？	稲作
3	「魏志」倭人伝に記された、邪馬台国（やまたいこく）の女王は？	卑弥呼
4	大阪府にある日本最大の前方後円墳（仁徳天皇（てんのう）陵とされる）は？	大仙古墳
5	縄文時代（じょうもんじだい）に食べ物の煮炊きや保存に使われた土器（どき）は？	縄文土器
6	縄文時代（じょうもんじだい）に作られた、まじないに使われたとされる土製の人形は？	土偶
7	縄文時代（じょうもんじだい）の人々が住んでいた、地面を掘って作った住居は？	たて穴住居
8	当時の人々が食べた貝がらなどを捨てた場所で、遺跡になったものは？	貝塚
9	縄文時代（じょうもんじだい）の主な暮らしは、狩り・漁と何だった？	採集
10	相沢忠洋が打製石器を発見し、日本の旧石器時代の存在を示した遺跡は？	岩宿遺跡
11	縄文時代（じょうもんじだい）の人々の暮らしでは、身分や貧富（ひんぷ）の差はどうだったと考えられている？	貧富の差はほとんどなかった
12	米作りが広まったころに使われた、薄手がかための赤褐色の土器（どき）は？	弥生土器
13	弥生時代（やよいじだい）に収穫した米をたくわえた、湿気を防ぐ建物は？	高床倉庫
14	弥生時代（やよいじだい）に祭りで使われたとされる青銅器は？	銅鐸
15	静岡県にある、水田のあとが見つかった弥生時代（やよいじだい）の遺跡は？	登呂遺跡
16	佐賀県にある、周囲を濠で囲んだ弥生時代（やよいじだい）の環濠集落（かんごうしゅうらく）の遺跡は？	吉野ヶ里遺跡
17	卑弥呼（ひみこ）が魏に使いを送り、皇帝から与えられた称号は？	親魏倭王
18	前が四角、後ろが円い形をした、大王（おおきみ）の墓に多い古墳（こふん）は？	前方後円墳
19	古墳（こふん）のまわりや上に並べられた素焼きの土製品は？	埴輪
20	近畿地方を中心に、大王（おおきみ）を中心として成立した政権は？	大和政権

21 大陸から日本へ移り住み、技術や漢字・仏教（ぶっきょう）を伝えた人々は？	渡来人
22 大和政権（やまとせいけん）の王を指す呼び名は？	大王
23 弥生時代、銅鏡や銅鐸などの青銅器は主に何に使われた？	祭りの道具や権力のしるし
24 邪馬台国の近畿説で有力な候補地とされる、奈良県の遺跡は？	纏向遺跡

正誤問題（5問）

1 正しいものを1つ選びましょう。

ア

- ア 当時の人々が食べた貝がらなどを捨てた場所が、貝塚として遺跡になった。
- イ 縄文時代には、食べ物の煮炊きや保存に弥生土器が使われた。
→ 正しくは「縄文土器」
- ウ 相沢忠洋が登呂遺跡で打製石器を発見し、日本の旧石器時代の存在を示した。
→ 正しくは「岩宿遺跡」
- エ 佐賀県にある岩宿遺跡では、周囲を濠で囲んだ弥生時代の環濠集落のあとが見つかった。
→ 正しくは「吉野ヶ里遺跡」

2 誤っているものを1つ選びましょう。

ウ

- ア 卑弥呼は魏に使いを送り、皇帝から親魏倭王の称号を与えられた。
- イ 渡来人が大陸から日本へ移り住み、技術や漢字・仏教を伝えた。
- ウ 奈良県の登呂遺跡は、邪馬台国の近畿説で有力な候補地とされている。
→ 正しくは「纏向遺跡」
- エ 大王の墓には、前が四角、後ろが円い形をした前方後円墳が多い。

3 正しいものを1つ選びましょう。

ウ

- ア 大阪府にある五色塚古墳は、日本最大の前方後円墳で、仁徳天皇陵とされている。
→ 正しくは「大仙古墳」
- イ 静岡県にある岩宿遺跡では、弥生時代の水田のあとが見つかった。
→ 正しくは「登呂遺跡」
- ウ 大和政権の王は大王とよばれた。
- エ 弥生時代には、青銅器の縄文土器が祭りで使われたとされる。
→ 正しくは「銅鐸」

4 誤っているものを1つ選びましょう。

イ

- ア 古墳のまわりや上には、素焼きの土製品の埴輪が並べられた。
- イ 青森県にある岩宿遺跡は、日本最大級の縄文時代の遺跡として知られている。
→ 正しくは「三内丸山遺跡」
- ウ 縄文時代には、まじないに使われたとされる土製の人形として土偶が作られた。
- エ 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、人々の生活を大きく変えた。

5 正しいものを1つ選びましょう。

ア

- ア 弥生時代の人々は、湿気を防ぐ高床倉庫に収穫した米をたくわえた。
- イ 縄文時代の人々は、地面を掘って作った寝殿造に住んでいた。
→ 正しくは「たて穴住居」
- ウ 近畿地方を中心に、大王を中心とする朝廷が成立した。
→ 正しくは「大和政権」
- エ 「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王として持統天皇が記されている。
→ 正しくは「卑弥呼」